

第1回南長浜地域まちづくり検討会議 要点録

I 日 時 令和5年7月7日（金曜日）13時30分～15時30分

II 場 所 長浜市役所本庁5階 5A会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 岩寄 博論委員（委員長）

久木 裕委員 川村 美津子委員 大橋 優子委員

宮部 広成委員 渡壁 佑樹委員 小林 大英委員

辻田 新也委員 中村 友洋委員 藤居 海好委員

草野 丈太委員 広実 佑馬委員 高部 格委員

税所 亮委員（オンライン）

【事務局】 未来創造部 中嶋部長、森次長

政策デザイン課 柴田課長、服部課長代理、饗場副参事、山崎係長、
野村主査

都市計画課 西尾副参事、和田主査

道路河川課 中川副参事

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 部長あいさつ

部 長 市長あいさつの代読

3 開催要領の説明

事 務 局 会議資料に基づき説明

4 正副委員長選出

事 務 局 委員長及び副委員長は、委員間の互選により選任することを説明。

→事務局からの提案により、委員長に岩寄委員、副委員長に金子委員が
選任された。

5 議 事

（1）南長浜地域まちづくりにかかる経緯説明及び7/2開催ワークショップの結果報告

事 務 局 ・資料に基づき、南長浜地域まちづくりにかかる経緯等を説明。

・7/2開催ワークショップの結果報告

6 委員紹介

事務局 各委員および事務局から自己紹介

7 意見交換

委員長

南長浜地域における事業はこれまで実現しなかったものも多く、上層会議である共創会議の方々もそれを分かっておられる。将来に向けて実現するような取組を進めていきたいということで市も重点プロジェクトの位置付けを行った。検討会議は、様々な立場の方がおられ、若者を呼び込むまちづくりに向けてフラットにゼロベースで構わないので活発な意見をお聞きしたい。

委員

自分は主に琵琶湖を撮る写真家をしている。琵琶湖は滋賀県に住む人の心の誇りのようなもので、そのものが魅力であると考えている。地域に何かを生み出さないと魅力がないわけではなく、田村周辺の地域の魅力をベースとして考えてはどうかと思う。

委員

自分は市外の間人だが、縁あって長浜市でクリエイター集団を設立することになった。長浜の魅力は自然の豊かさだと思う。畑の中を車で通るだけで、心地よさを感じることができる。滋賀県自体の良さを知らない人が多いこともあり、上手く情報発信すれば、良さは表現できるし、そこに魅力を感じて人は集まると考える。

委員

田村駅周辺は、多くの施設や琵琶湖、里山といった自然が存在しており、それを電車などから見ると“長浜に帰ってきたな”と感じる。ゼロベースでの検討という話があったが、イギリスでは産業革命後の町において、これまで町と関係のなかった「アート」を用いてまちづくりされた事例がある。はじめは否定的な意見があったが、それが定着してシビックプライドの醸成が起こりアートの町となった。南長浜地域も、どういうものを中心に据えるか、ということが重要になると考える。

委員長

差別化が大切か。自然はどここの地方にもあるという見方もある。他との違いが鍵になる。

委員

市外を拠点として観光関係の事業をしているが、広域的な視点から「なぜ今、南長浜地域なのか」という思いもある。長浜と米原で人口の取り合いをしても将来的に明るくはならない。長浜米原の生活圏の中で、20～30年スパンで考えながら検討すべきではないか。進めるのであれば、京阪神、東京・埼玉・海外から人を呼べるような施策を実行しなければ、長浜市内で過疎地域を増やしていただくだけであり、将来的に市税を消費するだけである。

委員

南長浜地域という地域をこれまで意識することがなかった。南長浜を

意識するような何かが必要と思う。

商業の立場から見て、長浜は独立商圏が成立している地域であり、独自に活動しているプレーヤーが多く、地場食品を仕入れて販売することが他地域よりも多い。特産品となる地域の食材が多いため、情報発信できれば人は興味を示すのではないか。

委員

「南長浜」はキーワードとして薄いイメージがある。長浜においては余呉や西浅井の方がキーワードとしては強く思う。企業目線で見ると、長浜は地場産品が多く、それを販売するプレーヤーも多い。滋賀県南部の県民目線で見ると、南長浜の印象は薄いものの、電車でこちらに来るときの田園風景や琵琶湖の景色が印象的な地域だと感じる。

委員

地域に激的な変化が必要だと感じる。若者が出て行って帰ってこないのは「働く場所がない」ことが原因の一つであり、サイエンスパーク周辺で起業を推進したり、スタートアップできるような場づくりが必要になると思う。

委員

青年会議所では、以前に政策提言したことがあり、その内容は湖岸沿いの IT 企業誘致で、和歌山県の白浜のようなイメージである。琵琶湖への距離も近くワーケーション整備をするには良い立地であると感じる。

また、若者や子育て世代に必要な要素として「教育」が考えられる。例えば、南長浜地域にある南小学校や南中学校における教育のブランディングができれば、惹きつけるポイントになるのではないか。

委員

農業の視点から言えば、収穫体験や農業体験だけでは人は集められない。「何か」を組み合わせて特徴を出すことで人を集められないかと考えている。

長浜市は「子どもを安全安心に遊ばせられる場所」がない。他にはない遊具などがあって、安全に遊ばせることができる環境があれば子育て世代は喜ぶと思う。

委員

自分の集落では、大人が子どもに集落を出ていくよう促すことが普通になってきた。子どものためを思っていることかと思うが、寂しい話である。

自分はアートの活動をしているが、アートは人を魅せる強い力があると考えている。人を魅せる、人を惹きつけるということで何か手伝いしていければと思う。

委員

差別化することが重要だと感じる。すべての地域を発展させることはできないので、どこに力を入れていくか検討していく必要がある。

南長浜地域には子どもを安全に遊ばせる場所がない。若者にとって魅力あるまちをつくるならば、そういった場所が必要と考える。

委員

なぜ南長浜地域なのか、ということは自分も感じるところであるが、

南長浜は「玄関口」としての役割があると思う。

今ある魅力を伸ばしたり、「成長するようなまちづくり」、「チャレンジできるまちづくり」といった要素が必要ではないか。それこそ、地域の人々がプレイヤーとなり、自分たちで地域を作りあげるから地域は強くなると考える。

エネルギー会社をしている身としては、地元だからできることもあると考える。ワークショップにて交通が不便との意見が多かったが、エネルギーを地域で作る、EVやデマンドバスを地域で走らせる“エネルギーの地産地消”など、「地域エネルギー×〇〇」というまちづくりは可能性としてあるのではないかと思う。

委員 東京や京阪神から車だけじゃなくてアクセスできる場所であり、鉄道があることも大きな要素だと考える。

この検討を進める上で、コンセプトの時間軸を共通認識する必要がある。自分が子どもの頃は、長浜駅前に“観光”のイメージはなかったが、20年近く経って今では観光の印象が強くなった。こういった時間軸でこういったまちを目指すのか一緒に考えていきたい。

委員長 時間軸を合わせるということは重要なポイントと思う。

黒壁の観光文化も20年前のまちづくりが、現在、形になっていて、我々は恩恵を受けている。そういった視点で将来を見据えた検討が必要である。

規制の話もあるので、20年後などを見据えてバックキャストで検討を進めていく面と、すぐに対処できる面と、両面から進めるといいと思う。

滋賀県の方は、南のことは知っている北のことはよく知らない。そこを変えていけるか、地方部の魅力は何なのか認識が必要ではないか。

7 その他

事務局 ・今後のスケジュール等について説明
第2回は、9月1日（金曜日）を予定。後日、日程調整。
現地フィールドワークを実施予定。後日、日程調整。

8 閉会

事務局 未来創造部次長より閉会の挨拶
次長 【次長挨拶】
・短時間で多くの意見をいただいた。
・行政内で考えていくと固まる傾向もあるので、委員の皆さまからキーワードをいただきながら、次回以降も進めていきたい。

以上